

研究発表

報道発表資料の配付日時 10月8日(火) 15時00分

アルコール性大腿骨頭壊死症モデル確立

～短期間であっても過度の飲酒はアルコール性大腿骨頭壊死症の危険因子～

<研究の概要>

厚生労働省の難治性特定疾患に指定されている特発性大腿骨頭壊死症に含まれるアルコール性大腿骨頭壊死症の発生機序は明らかでなく、その治療法も確立されていない疾患である。その原因の一つとして、動物モデルが確立されていないことが挙げられる。

今回、アルコール含有液体飼料を用いた世界で初めてのアルコール性大腿骨頭壊死症ラットモデルを確立した。また、その発生機序には肝臓での機能障害などが関与している可能性が示唆された。

<研究のポイント>

- ・アルコール含有液体飼料を用いた世界で初めてのアルコール性大腿骨頭壊死症動物モデルを作製
- ・短期間であっても、過度の飲酒が原因となり得る可能性
- ・特発性大腿骨頭壊死症（アルコール性、ステロイド性）の発生機序解明、治療法への応用が期待出来る

<研究の背景・実施期間など>

特発性大腿骨頭壊死症は推定で毎年2000名あまりの方が発生するとされ、そのうちおよそ600名がアルコールに起因するものと推定されています。アルコール性大腿骨頭壊死症は長期飲酒、大量飲酒によって男性に多く発生すると考えられていますが、その発生機序や治療法は確立されていません。

<研究の意義・これからの可能性、今後への期待、今後の展開など>

今回、この疾患モデルをラットで確立できたことは、すでに報告しているステロイド性大腿骨頭壊死症ラットモデルと合わせ、特発性大腿骨頭壊死症の病態の解明から治療への応用を検討することができるため、臨床応用が期待されます。

また、ラットではわずか1週間の5%濃度のアルコール摂取（ビールと同等）により大腿骨頭壊死症が発生したことから、従来から指摘されている長期間の飲酒のみならず、短期間であっても過度の飲酒が原因となることが示唆され、注意が必要と考えられます。

<論文発表の概要>

題名：Experimental rat model for alcohol-induced osteonecrosis of the femoral head

著者：Shunichiro Okazaki 1,2), Satoshi Nagoya 1), Kenji Tateda 3), Ryuichi Katada 2), Keisuke

PRESS RELEASE



<http://web.sapmed.ac.jp/>

Mizuo 2), Satoshi Watanabe 2), Toshihiko Yamashita 3), Hiroshi Matsumoto2)

所属：Department of Musculoskeletal Biomechanics and Surgical Development 1), and Department of Legal Medicine 2), and Department of Orthopedic Surgery 3)

掲載誌：International Journal of Experimental Pathology

<本件に関するお問い合わせ先>

所属・職・氏名：札幌医科大学医学部法医学講座兼生体工学運動器治療開発講座 講師 岡崎俊一郎

TEL：011-611-2111 (内 2759)

FAX：011-611-3935

E-メール：oka@sapmed.ac.jp